

CASE 1
施設を
休止・売却

樺山キャンプ場

市民の森林利用と余暇活動を支援するために、平成3年に開設された「樺山キャンプ場」。収入が増えず、また木製建物の腐食や老朽化などが問題となつていきます。今後、大幅な修繕が見込まれるため、平成29年度から休止します。

宮崎市南消防署
大塚出張所

昭和52年に開設された「大塚出張所」。現状では法律上の機能を有しておらず、水防倉庫として利用していましたが、しかし、他の消防施設と機能が重複していることや、老朽化が著しく進んでいることから、建物を処分売却します。



老朽化

利用者少

樺山キャンプ場
[平成3年開設]

利用者人数
1,614人
(平成24年度)
市が負担した経費
約669万円
(平成24年度)

宮崎市南消防署大塚出張所
[昭和52年開設]

利用者人数
なし
(平成24年度)
市が負担した経費
約75万円
(平成24年度)



老朽化

機能重複

公共施設の

処分

(休止・売却など)



将来を見据えた宮崎市づくりのために
変わりはじめた公共施設。
その中で、具体的なケースを紹介します。

未来を考えよう！

再配置



CASE 2
機能を複合し
移転

歴史資料館

歴史資料館とは、みやざき歴史文化館、生目の杜遊古館、佐土原歴史資料館、天ヶ城歴史民俗資料館、きよたけ歴史館の5施設のことです。これらの施設は、歴史関係の文化財を展示する機能が重複している上、宮崎科学技術館や大淀川学習館などと比べると、ソフト面利用頻度や市負担額などが劣っています。3施設は築20年を経過し老朽化が見られることから、再配置計画機能の統合などを進めていきます。

青島保育所

築約40年の青島保育所は施設の老朽化に加え、南海トラフ巨大地震による津波の被害も想定されています。そこで、新たに高台に建設する複合型防災施設に、同地域内の老朽化した地域センター(庁舎、公民館、児童センター)とともに機能を移転します。



老朽化

費用多

みやざき歴史文化館
[平成4年開設]

利用者人数
58,246人
(平成24年度)
市が負担した経費
約6,675万円
(平成24年度)

青島保育所
[昭和49年開設]

利用者人数(月平均)
33人
(平成24年度)
市が負担した経費
約5,163万円
(平成24年度)



必要性高

浸水被害

街の皆さんの声を聞いてみました！



宮崎の未来を見据えて
必要な施設は守って
いきます。

全ての施設を将来にわたって維持できない状況なので、同じ機能(例えば、資料館の展示の機能)を持つ施設は、施設数を見直して機能をまとめていきます。しかし、南海トラフ巨大地震や少子高齢化の対策といった「将来世代に引き継ぐべき施設の機能」は、施設を建て替えてでも守っていきます。



課題のある施設
を見直して必要
なサービスを
向上させます。

建物の老朽化が進み、多額の修繕更新費用が見込まれる施設や利用者が少ない施設など、課題のある施設は見直し、できる限り民間に売却したいと考えています。売却した利益は、必要な市民サービスの向上に活用していきます。



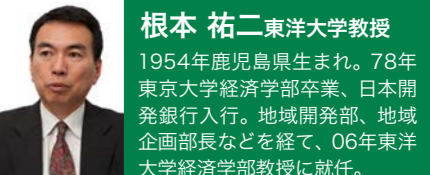
実は、ハコモノよりもインフラ(道路・橋・上下水道など)の方が市民の生命や生活に直結します。例えば、橋が落ちたり、上下水道が止まったりすれば大きな影響が出ます。まずは、インフラの安全を守ることを含めて、市民自ら何を優先するかを考える責任があります。多くの施設やインフラを維持したければ、自分たちで税金を出し合うべきです。他の地域の人が支払う税金や、子どもや孫が負担する借金を当てるに、自分たちの満足を高めようとするのはとても寂しいことだと思います。

施設があることが豊かなのではなく、施設が少なくても豊かな公共サービスは存在します。複数の市町村で一つの施設を共有する広域化、学校や市庁舎に公民館、図書館、保育所、ティケアセンターなどのさまざまな機能を取り込む多機能化、思い切って民間に譲渡し必要に応じて費用を補助するソフト化などが有効です。全てを維持できないことが分れば、優先順位を付ける冷静な議論ができるはず。

宮崎市は、市民一人当たりの施設量が多いです。一見豊かに見えますが、維持管理や改築の費用負担を市民自身がしなければならぬことを忘れてはなりません。特に、1990年代バブル崩壊後の景気対策の時期に施設を作ったこと、全体計画を立てる前に老朽化した施設(市営住宅)の建て替えをすでに始めていることが大きな問題です。国は、今年度から公共施設等総合管理計画を立てるよう求めています。この機会を逃さず、抜本的に施設の在り方を見直すべきです。

専門家から見た宮崎

「公共施設＝豊かさ」は間違いです



根本 祐二 東洋大学教授
1954年鹿児島県生まれ。78年東京大学経済学部卒業、日本開発銀行入行。地域開発部、地域企画部長などを経て、06年東洋大学経済学部教授に就任。

施設がなくなるのは寂しいけど、将来にわたって住みやすい街にするために、これからの公共施設の在り方について、みんなで考えていかなきゃね



【アンケート】
皆さんはどう思いますか？
宮崎市民の公共施設に対する思いをお聞かせください。特設サイト内のアンケートページへはこちらのQRコードからどうぞ。

